

ヤマユリ、ふるさとの自慢

ヤマユリ植え替え
講習会

麻生区地域課題対応事業
麻生ヤマユリ植栽普及会

ヤマユリ球根の植え替え(概説)

- ① 種まき鉢、球根鉢は、それぞれ**2年間はその鉢の儘**で育てて良い。
《※鉢植え1年目の開花後の秋に、ヤマユリ球根より上の部分の用土のみの入替えを推奨》
- ② 種まき鉢、球根鉢共に **2年目の秋に必ず植え替えを実施**する。
以降は毎年植え替え推奨。(毎回、必ず新しい用土を使用する)
《※鉢植で根域が制限されると、球根が縮小することも有る》
- ③ 小球根(小指の先大)同士は**5cm以上は離し**、少なくとも球根の高さの**3倍の深さ**(=2倍の深さの用土を被せる)に植付けると良い。
《※3倍以上の深植えを病害虫対策面から推奨(庭に地植えの場合)》
- ④ ヤマユリの球根は、薄皮を持つ他の球根と違い非常に繊細です。
- ⑤ 病気・食害は治せないなので、**予防の為の殺菌・殺虫剤散布**を行う。
- ⑥ 庭等に地植えの場合、**ヤマユリは連作を非常に嫌う**ので 過去3年以内にヤマユリを植え付けていた場所は避ける。

11月はユリ根の植え替え適期です！

鉢植えヤマユリ植え替え手順

① 球根を鉢から取り出す

＜種まき鉢の場合＞



＜球根鉢の場合＞ **木子が有る！**



② 球根の根をできるだけ傷めないように 丁寧に土を落として清水で洗う

＜種まき鉢の場合＞



＜球根鉢の場合：③→②＞



ビニール等の手袋をする

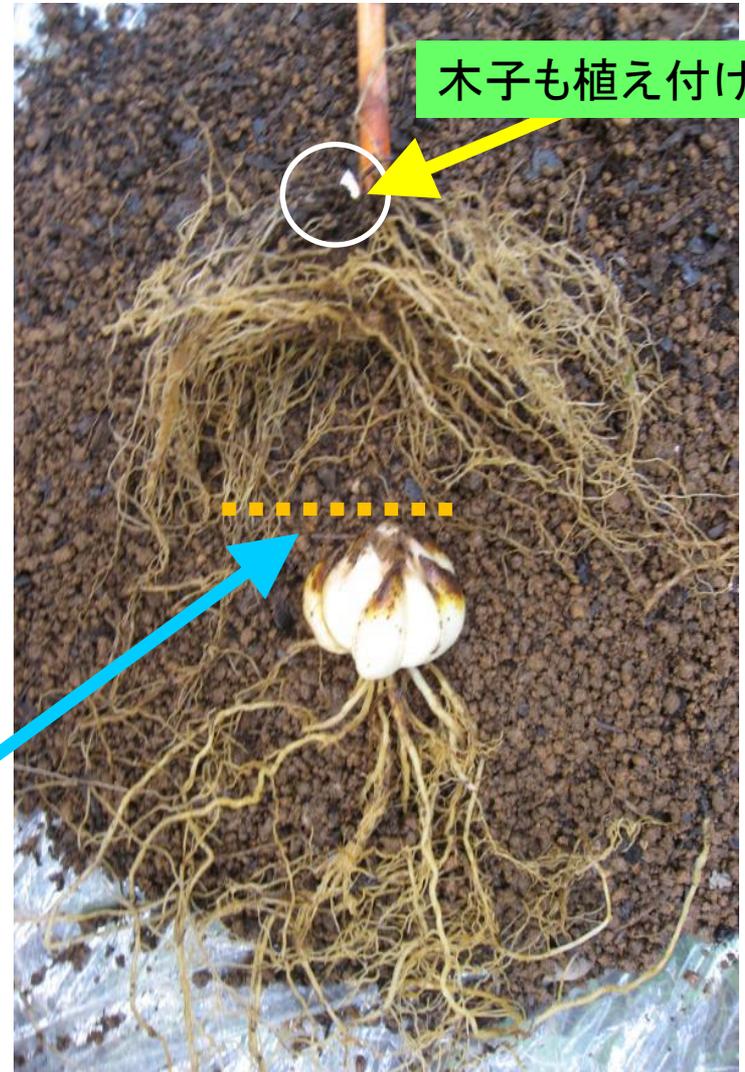
③ 球根の上(上根の下)で茎を切り離す

＜種まき鉢の場合＞



球根を傷つけないように
丁寧に切り離す

＜球根鉢の場合＞



木子も植え付ける

④ 球根をベンレート水和剤、または オーソサイド水和剤の500倍希釈水溶液に 30～40分浸す

* 種まき鉢も 球根鉢も、使用する殺菌剤は同様
(参考 500倍希釈水溶液: 薬剤 2gを 水1 ℓに溶かす)



⑤ 球根を取り出し、陰干しにして乾かす

＜種まき鉢の場合＞

（目安：20分～30分程度）



＜球根鉢の場合＞

（目安：1時間～2時間程度）



*** 球根や下根が乾燥しすぎないように注意！**

⑥ 鉢の選定（形状、大きさ、深さ）

＜鉢の場合＞



菊鉢8号(24cm)以上の
サイズが望ましい

(写真は鉢底の裏側)

＜プランターの場合＞



深さ20～23cm程度必要！

底に多めに通気/排水用の穴を開ける
水が底に溜まる構造の鉢は根の発育
を妨げるので避ける

(※菊鉢のように底穴が多く空いた製品有)

⑦ 用土別使用量と手順

<小球根の場合>

①鉢底石か赤玉土(大粒)
(底が見えなくなる程度)



②赤玉土(小粒)
(鉢の7分目程度)



③球根植付け間隔10cm程度
(※小指先大の球根の場合)



⑥ベンレート500倍液を、
鉢底から染み出る程散
布して完了



⑤球根の高さの3倍程度、混
合土(赤玉土3:腐葉土2)を被
せる。 地表面を腐葉土等で
覆うと乾燥防止に良い



④球根を立てて、赤玉土を
球根が隠れる程度入れる

⑧ 用土別使用量と手順- I

<球根鉢の場合>

① 軽石か赤玉土(大粒)



② 混合土 赤玉(小) 1 : 軽石か赤玉(中) 1



④ 赤玉土(小粒)



⑤ 混合土 赤玉土(小) 3 : 完熟腐葉土 2



⑧ 用土別使用量と手順-II

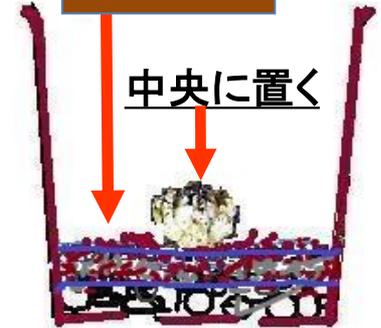
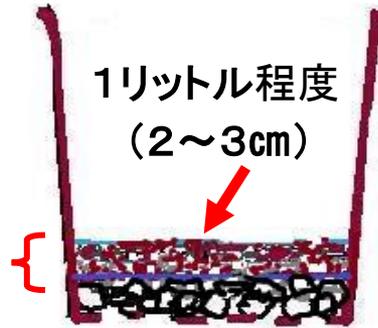
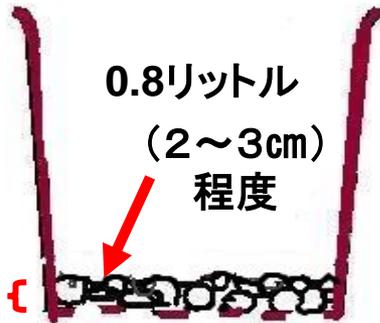
<球根鉢の場合>

8号鉢の場合

(※赤玉土を軽石の代わりに使用推奨)

赤玉土を
少量敷く

中央に置く

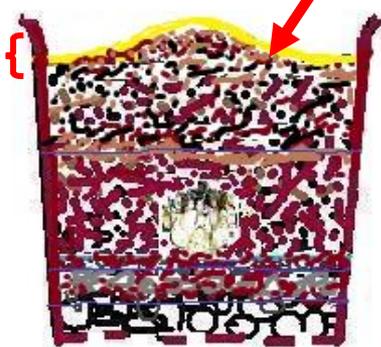


①赤玉土(大粒)

②赤玉土(小粒)1:赤玉(中粒)1

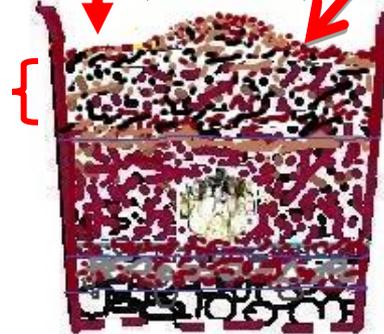
③球根

表土を覆う程度に



2.5リットル程度
(5~7cm)

盛り上
げる



3.5リットル程度
6~8cm



⑥腐葉土等、後散水

⑤赤玉土3:腐葉土2

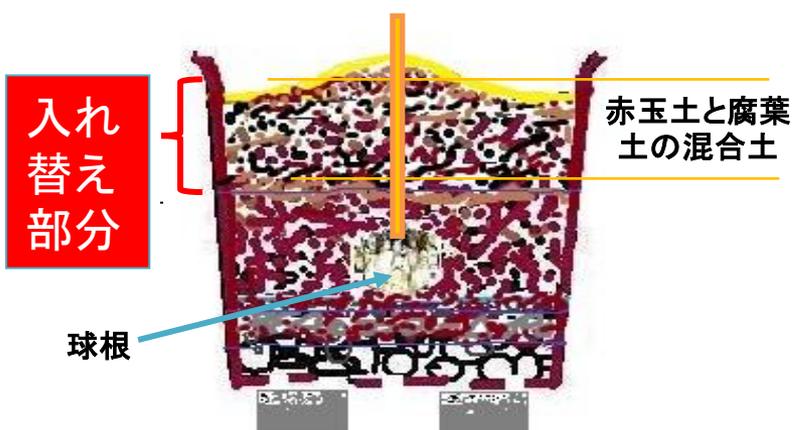
④赤玉土

⑨ 球根鉢 植え付け1年目秋の用土の入れ替え

◆ 球根の上部分のみ、用土を入れ替える

ア) 球根の上部まで用土を掻き出す

鉢仕立ての断面図



イ) 茎を球根の直ぐ上で切取る(上根の下)



ウ) 赤玉土を少々入れ、次に赤玉土と完熟腐葉土の混合土を入れる
(※表土の乾燥防止用に、腐葉土等で覆うと良い)



エ) ベンレート500倍水溶液を鉢底からしみ出る程度散布する

◆通年管理のポイント

◆4月～10月頃まで◆

- ① 鉢、育苗トレーを敷石上に置く。(レンガ、タル木等)
- ② 排水が良く、湿度の保たれた環境で、半日陰で風通しが良く、強い雨が当たらず、18～20℃の温度を好む。
(※午前中は良く日が当たり、午後には日陰になるような、東向き of 斜面、明るい日陰が最適)
過湿は病虫害の原因となり、根や球根本体を痛める原因となる。
土質は有機分に富み、排水性と保水性に優れた弱酸性(pH5.5～6.5)が適する。(※幼苗のうちは根が弱いため、乾燥には特に注意する)
- ③ **高温と乾燥には非常に弱い**ため、鉢や株の地際への直射日光を避け、表土を腐葉土等で覆うと乾燥対策になって良い。
(※強い日差しや強い雨が直接当たらないように、鉢を庇や木の下に置いたり、寒冷紗等で覆うと適度な遮光や防虫対策にもなって良い)
- ④ 花は日光に向かって咲くので、鉢を2、3日毎に少しずつ回して育てると偏らず良い。



◆通年管理のポイント(続き)

- ⑤ 添え木、リング支柱は立てる場所に要注意！(地中の球根を意識)
掛け紐は8の字掛け、茎丈の2/3位の位置で止める。
 - ⑥ 球根を大きく充実させると、花を多く咲かせることが可能となる。
 - ⑦ **病気・害虫被害は治せない為、予防の殺菌・殺虫剤散布が必要。**
発芽時、梅雨時、夏期明けには病虫害の発生が多いので、薬剤の散布間隔を短くすると良い。(環境に依るが、月に2回程度を目安に)
※同じ薬品を使用し続けると、薬物耐性が生じる可能性があるので複数の薬品をローテーション散布すると良い。
 - ⑧ **完熟腐葉土だけで、元肥、施肥は基本的に必要ない。《※堆肥は忌避》**
施肥したい時は、出芽後と梅雨明け時に液肥を薄めて与える。
幼苗への施肥(薄めた液肥)は一定程度効果が認められる。
※施肥は適量でもさほどの効果が認められなく、かえって雑草繁茂、害虫呼び寄せ等で害になることもある。《地植え、開花球以上の場合》
※窒素飢餓や赤玉土の鉄・アルミニウムがリン酸と結合して奪う点に留意
- * 夏の高温で地上部の生育が止まり、球根を充実させるきっかけとなる。

◆通年管理のポイント(更に続き)

◆ 1 1月～3月頃◆ ……《不活動期》

11月はヤマユリ植え付け・植え替えの最適期！！

- ① 球根植え付けの1年目は、枯れた茎を根元から切り取っただけでも良いが、出来れば球根から上部の用土の全入れ替えすると良い。

(植え替え時には、必ず新しい用土を使用すること)

鉢植えの場合：2年目には必ず植え替え、以降 毎年植え替えると良い。

植え替え時、殺菌剤液で冠水すると良い。

- ② 鉢は北風を避け、腐葉土等で地表を覆う等の防寒対策を行うと良い。
不織布を地表面にベタ掛けでも良い。《マルチング》

※霜柱等で球根が浮き上がると枯死する

- ③ 日陰に移し、土の乾き具合を見ながら若干水遣り。(乾燥に注意)

※地中の球根は生きています!

* 冬の寒さは、球根の休眠打破や花芽分化の誘導の為に必要

◆病害虫への注意点

- ①害虫：ナメクジや虫などが病原ウイルスを媒介・食害する。
アブラムシ、ナメクジ、ヨトウムシ、毛虫（蛾の幼虫）、ダニ等が代表的な害虫である。
- ②代表的な病気：
 - モザイク病：葉に濃淡、奇形。不規則な緑の斑点が長く黄色に変わる。生育が衰え、球根の肥大が止まる、
 - 葉枯病：葉だけで無く、茎や花にも発生。褐色の楕円形の病斑が全体に広がり、全体が立ち枯れ症状となる。
 - 炭疽病：葉に楕円形斑点、球根に褐色斑点発生、腐敗することも。
 - 球根腐敗症：球根が急に褐色に変色し、柔らかくなって腐る。
 - 白絹病：ユリ根が腐り、周辺土に白いカビ状のもの発生。
 - グロリオサ症状：ウイルス感染で起こり、花や葉が細く縮れる。
- ③対策として、適宜、予防的に殺菌・殺虫薬剤を散布する。
- ④病気の株は治せないなので、根周りの土（ヒゲ根）ごと処分する。
- ⑤ウイルスの親子連鎖伝染を断つためには**種子繁殖**が良い。

◆殺菌・殺虫剤

(用法・取扱等、使用説明書に従うこと)

❖ 殺菌剤: ベンレート、オーソサイド、ダコニールなど



❖ 殺虫剤: オルトラン水和剤・粒剤



❖ 展着剤: ダイン



❖ ナメクジ駆除剤

※同一薬剤だと、薬物耐性を生じるので、異なる薬剤をローテーション散布すると良い



白アブラムシの発生



蕾の落下



葉枯病



グロリオサ症状



追記

(1) ヤマユリ成長の観察記録を作成してみましょう。

- ①芽吹きの日
- ②毎月1～2回、葉・茎丈の成長・状態記録
- ③病害虫の有無観察
- ④薬剤散布の使用薬剤、散布日・回数など
- ⑤蕾、開花の成長・状態記録
- ⑥植え替えの日
- ⑦特記事項、疑問点等

【推奨参考文献】…ヤマユリ農家向けで、少々専門的ですが参考になります。

**「新特産シリーズ ヤマユリ 球根の増殖と花の楽しみ方、
自生地復元」** 小俣虎雄=編著／農文協

皆さまへのお願い

(2) 麻生ヤマユリ植栽普及会の活動に参加してみませんか？

- ・手始めに、**お近くの各植栽地活動の見学**は如何ですか。普及会では 賛助会員も随時募集しています。
- ・ご意見、ご参加希望等を アンケート用紙にご記入ください。

連絡先：〒215-8570 川崎市麻生区万福寺1-5-1

麻生区役所 地域振興課 ヤマユリ担当

電話 044(965)5370